

取扱注意

新着任幹部用教材

DASIT 紹介

おどろきと喜びの材料

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

## DASHについて

### § 1 DASH Weapon System

#### 1 DASHの開発

原子力高速潜水艦の出現に対抗する手段

テラー海軍大將を中心とする研究グループが開発を提唱

DDにとり載可能な無人H/Cによる対潜攻撃法

部内の強硬な反対論をしりぞけ、10億ドルの予算で開発

いわゆるFRAM計画

II

( Fleet Rehabilitation and Modernization )

1962年QH-50C型DASH成功

#### 2 DASHの概要

##### (1) 目的

QH-50D型DASH

DDからリモートコントロールされる無人H/Cで対潜戦に使用される。魚雷運搬機

##### (2) 性能要目

正式名称	QH-50D
全備重量 (MX44魚雷2本とり載)	2,282ポンド
軽荷 "	1,151ポンド
全長 (ローター長)	20feet
ローター型式	同軸逆回転式
エンジン出力	330 2000馬力

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

最大速力	80 kt
飛行時間最大	約60分
最大攻撃距離	30マイル
装備武器	MK-44×2 又はMK-46×1 又は特殊B/C×1

## (3) コントロール機構

管制装置 } に大別  
ヘリコプター本体 (QH-50C) }

### ア 管制機構

コントロールボックス (デツキ用とCIC用) …… DASHに指令を与える。

コーダーセット×2 …… 指令の符号化

送信機及びアンテナ×2セット …… 符号化信号をFM出力に変える。

電源装置 …… 附属装置

### イ QH-50C DASH

デコーダー (複写器) …… 送信機から発信されたFM信号を受け解読し操縦指令量に対比する電圧量に変える。

### ウ AFCセット (Automatic Flight Control 自動操縦装置)

サーボ機構×4箇 …… デコーダーからの出力電圧を機械的な力に変更それぞれ4つの操縦軸系を作動させDASHをコントロール

# HP『海軍砲術学校』公開資料

AFCセツトはDASHの飛行姿勢を検知……所要の姿勢に保持する検知装置を含む。

## エ DASHの飛行

運動量に比例し変化する4つのプロポーションナルコマンドにより自由自在にControl 即ち次の4軸系によりコントロール

㊦ ピッチのプロポーションナルコマンド……前後進のスピード

㊧ ロールの “ ” ……横進の “ ”

㊨ ローター翼端のチップブレイキ……機首方位の保持と旋回

㊩ コレクティブピッチのコマンド……高度

### 註1：プロポーションナルコマンド

飛行指令は連続的に与えられ、断続的に指令が与えられるE D型標的機とは異なる。

註2：チップブレイキ……通常のH/Cのテールローターに相当する作用をもつ。

a 前後進又は横進…スワツシユプレートがローターディスク(ローターの回転面)を前後又は横方向に傾ける。

b 旋回……上下いずれかのチップブレイキを開閉させてトルクを発生させ機体を旋回させる。

c 高度……ブレイドのピッチを変え(回転数一定)揚力を増減する。

## オ ポーイングT50-E0-R4型エンジン

### 2軸のガスタービン

a ガスプロデューサー  
b パワーアウトプツトセクション } に2分

# HP『海軍砲術学校』公開資料

## ㉑) パワーアウトプットセクション

出力回転数……コントロールがパナーにより、常時 6000 回転に保持。ローター直下のトランスミッション機構により、ローター回転数を 610 回転に保持。

## ㉒) 最初のエンジン始動

管制装置が別系統のコントロールモーターにより  
モーターはリレーと直線で連結  
プリフライトチェック終了後、スイッチで切り離す。

## (4) 製造会社

ニューヨーク セントゼイムス市 ジヤイロダイン社

下請会社……エンジン部……ボーイング社

管制装置  
機上電子機器類 } バブコック社等

## (5) 戦術上の評価

DASH の出現で艦隊は ASW 能力を倍加した。

米海軍ではアスロックと並び対潜用の主力兵器

高性能  に対しても攻撃的優位保持可能

攻撃精度………ソーナーとソーダーの精度による

攻撃距離………ソーナーの探知距離をはるかに凌駕

その将来性は十分期待しうる。……性能改善、用途の拡大。開発の歴

史が浅い。

# HP『海軍砲術学校』公開資料

## § 2 DASH艦について

### 1 DASH要員の艦内部署

#### (1) 基本条件

ア DASH要員……砲雷長の指揮下

イ DASHの燃料、通信、防火、救難等……それぞれの受持分隊の所

ウ DASH搭載する魚雷の管理調整、装填等……魚雷長が実施

エ DASHの分隊士はデツキコントローラーで、その任務を遂行する。

① DASHの訓練

② 整備の監督

③ DASH装備品の管理

④ 安全管理士官

⑤ 諸報告

オ 艦長……DASH分隊士職務が過重にならないよう適宜当直勤務

等の減免を裁量

カ CICコントローラーは、デツキーコントローラーであると同時に

CIC士官であり、ASWエヤーコントローラーの資格を有するものとする。

キ その他必要に応じ

電子整備員

務員

電話員

CICプロッター員

をして支援させる。

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

## (2) 戦斗部署表

(1例)

戦斗部署表 (例)				
部 署	配 置	科	員数	職 種
艦 橋	I J S 電話		1	情報士官
飛行甲板	デツキコントローラー	ダツシユ	1	士 官
	電話/記録及びコントローラー -補佐	DASH	1	先任海曹
	発着艦作業	"	2	
	列線消火員	"	1	
送信機室	モニター員	"	1	ET
CICルーム	CICコントローラー	"	1	士 官
	NC-2 プロッター	CIC	1	RD
	PPI (水上)	"	1	RD
発電機員	管 制 員	機 関	1	工 作
射撃方位盤	方位盤指揮官	砲 術	1	士 官
	ポインター	"	1	海 士
	トレーナー	"	1	"
	レーダー管制	"	1	PT
中甲板	防火及びレスキュー	応 急	6	
工作室	応急工作班	"	$\alpha$	
計				$21+\alpha$

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

## 2 DASH 機の関連装置

次の関連装置をとら数

名 称	型 式	数 量
DASH	GE-500	2
デジキコントロールボックス	Transmitter Control C-3314/SRW-4C	1
” ” ベダスタル	Transmitter Control Pedestal M-2351/SRW-4C	1
DICコントロールボックス	Transmitter Control C-3313/SRW-4C	1
コーダ	Audio Frequency Coder ZY-342/SRW-4C	2
トランスミッターコントロール(デジキ)	Transmitter Control C-2810/SRW-4	1
” ” (DIC)	” ” C-2804/SRW-4	1
トランスミッター	Radio Transmitting Set AN/URW-14A	2
インターコネクティングボックス	Interconnecting Box J1818/SRW-4	2
” ” ”	” ” J1089/SRW-4	1
” ” ”	” ” J1052/SRW-4	1
パワーサプライ	Power Supply PP-2288/SRW-4	1
リレーアッセンブリー	Relay Assembly RE-434/SRW-4	1
Rfトランスミッションラインスイッチ	Radio Frequency Transmission Line switch SA-3311 SRW-4	1
アンテナ	Antenna AT-3481a	2

## 備 考

上記器材は直接フライトに関連するもの。これ以外に、これら器材の作動機能を監視あるいはチェックするための SSE ( Special Support Equipment ) ( 特殊整備器材 ) と SBE を修理する。

GSE ( General Support Equipment ) ( 一般整備用器材 ) がとら



# HP『海軍砲術学校』公開資料

成される。

## § 3 DASH 運用法

### 1 発艦から着艦まで

#### (1) 発艦条件

発艦は着艦に比し極めて容易…… DASH 操縦性による。

但し、発艦に際し艦長は次の点を守らねばならない。

ア 相対風速…… 30Kt 以下 (コントローラーの練度により拡大できる)

イ フライトデツキに激しい乱流を作らないようにする。

ウ ローリング  $7^{\circ}$  以上を作らないようにする。

エ エンジン始動から発艦まで緊急の場合を除き変針しないこと。

変針したら、その旨コントローラーに知らせること。

オ DASH は原則として風上に発進させる。

従つて風上側がクリヤーであることを確認する。

カ  の位置と DASH の発進方向等、戦術的要素をも配慮する。

キ 高温低圧時の発艦はフライトマニュアルの「発進に必要な相対風速表」を参照すること。

#### (2) 発艦

発艦から通常飛行に移るまでの手順

ア コントローラーはプリフライトチェックを終つたならば、その旨艦長に報告。

イ ホールドダウンケーブルを離脱させ、上昇指令を送り、約 20 秒間ランディングスポットの上 5 ~ 10 フィートにホバリングさせる。

# HP『海軍砲術学校』公開資料

- ウ 高度を上げながら相対風の方向にDASHを自艦から発進させる。
- エ 自艦から充分クリアーしたならば、DASHをホバリングさせて、マニユーマーモードからクルーズモードに切り換える。(マニユーマーモードとは操縦桿を使用して発着艦等を行う目視操縦、クルーズモードとは旋回、機速共にダイヤルを使用し、主としてCICで操縦する操縦系をいう。)
- オ 最低実高度150フィート以上を保ちながらコントロールステーションをCICに移す準備をする。
- カ 艦長はDASHが艦を充分にクリアーするまで針路速力を保持すること。

## (3) CIC Stationへのコントロール移換

- ア CICステーションへのコントロール移換は、デツキコントローラーが、DASHを充分視認し得る距離で、またCICコントローラーがレーダー上でダツシユを確認できる距離で実施しなければならない。
- イ コントロール移換中、艦を交針する必要が生じたならば、その旨をコントローラーに知らせるとともに、デツキコントローラーがDASHを見失わないよう適宜の処置が必要。
- ウ コントロール移換中、デツキコントローラーとCICコントローラーは絶えず電話でその作動を連絡し、互に確認する必要がある。  
特にスピードと高度のセットを間違えると墜落を生ずることがある。
- エ 移換は50Ktのスピードで実施するのが最良である。  
これは、このSpeedにおいてDASHが最良の上昇速度を得られるからである。
- オ 最後にCICは確認パターンを指令する。これは両者によつて確認

# HP『海軍砲術学校』公開資料

されるべきである。


カ 移換中にCICの故障を発見したならば直ちにコントロールをデックステーションに戻し、その原因を確かめねばならない。


場合によっては着艦させる必要もある。

## (4) 魚雷投下

ア 移換が完了したならば、CICコントローラーは80Ktの速力で、DASHを魚雷投下点に直行させる。

イ MK-44魚雷の投下諸元はフライトマニュアル付表「MK-44魚雷投下諸元表」により求める。

ウ CICコントローラーは、CICルームの目標表示盤でプロットされる  の位置を見ながら、目標上にDASHを指向し、あらかじめ計算された投下点で魚雷を投下する。

エ 魚雷の単独投下又は同時投下或いは投下点は、そのときの  の状態魚雷の調整等の如何による。

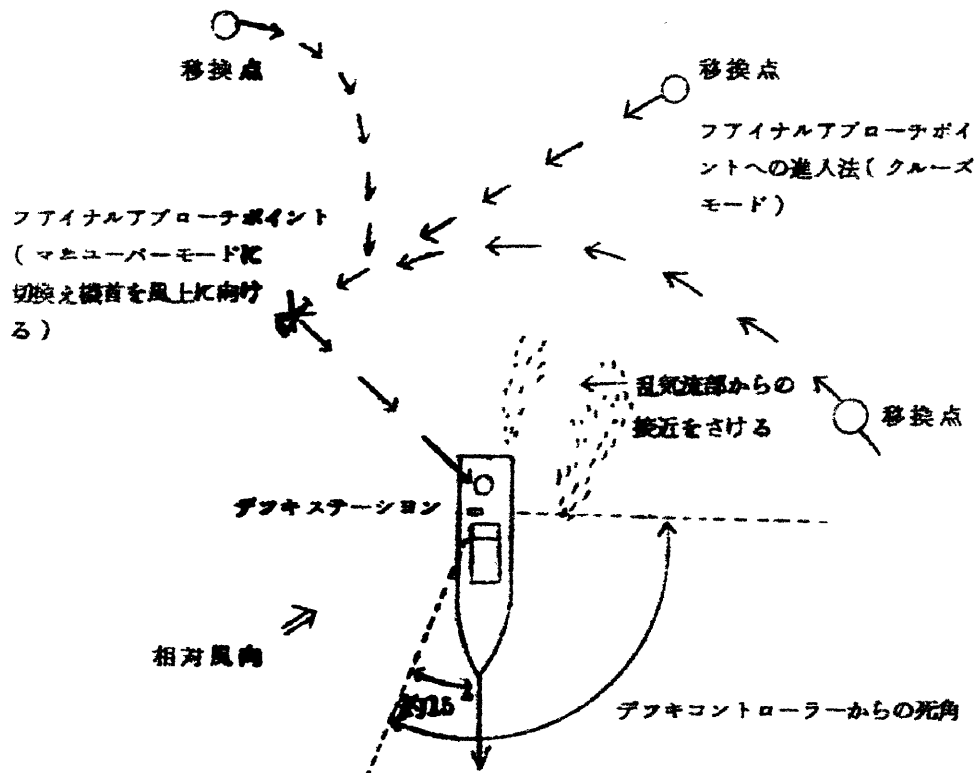
## (5) 帰 航

ア 帰航は発進から攻撃に至るまでの逆の方法でなされる。

イ Deck Controller は、相対風向風速、DASHの重量、自艦の運動を考慮して、あらかじめアプローチ計画をたて、必要な目標の針路速力を艦長に進言し、左舷又は右舷のいずれから着艦せしめるかを決定する

次図はアプローチ計画の1例である。

# HP『海軍砲術学校』公開資料



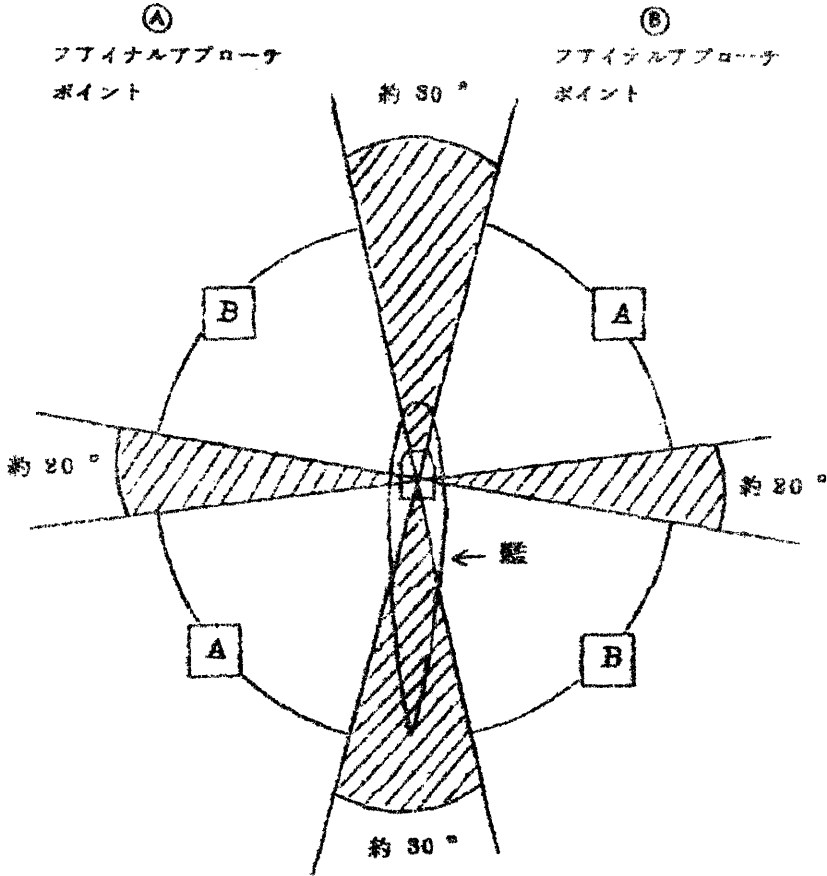
注：舷に風を受ける場合は舷から着弾させる。

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

## (f) 着艦

着艦時における艦と相対風との関係

DASHの進入経路は次図のとおり



**A**象限からの相対風に対してはファイナルアプローチ

Point **A**からデツキへ進入

**B**象限からの相対風に対してはファイナルアプローチ

Point **B**からデツキへ進入

せしめる。

何れも風上に機首を向ける。

# HP『海軍砲術学校』公開資料

◎注意 対艦方向から 10Kt 以上の相対風となる時は乱流がフライトデッキの周辺に起るからなるべくさける。

ア 操縦法としては着艦が最も難しいとされている。しかしこれはコントローラーの熟度によるもので。艦長はコントローラーの熟度を加味し、艦の動揺、相対風向速に注意を払うことが肝要。

イ 着艦に際しては、コントローラーは沈着さを失ってはならぬ。冷静な判断力が安全な着艦をならしめることを銘記すべきである。

ウ コントローラーは D A S R をデッキ上の 10~15 フィートに誘導し、而る後出来るだけスムーズに降下させる。着艦したならば、10%コレクティブを指令し、而る後エンジンを停止する。停止はその後速やかに行き、コントローラーは艦長にその旨報告する。

(7) D A S R は距離 27.75 マイルの目標に対し、次の任務遂行能力を有す。

クウォムアップから発進まで 80 秒

最大速度 80Kt で飛行し、

地面効果のない高度で 12 分間のホバリング

魚雷投下

最大速度で帰艦

高燃燃料の 10% の残量

(8) 飛行中の放棄

ア 飛行中のエマーゼンシープロシージャー及び飛行制限については、フライトマニュアルに詳述。

イ 艦長は飛行中の emergency procedure に備え、あらかじめ D A S R コントローラーや CIC のチーム訓練を実施するとともに、墜落

# HP『海軍砲術学校』公開資料

火災等に対し万全のそ置を講じておくことが肝要。

ウ 次の飛行制限が遵守されねばならない。

項 目	初 期 訓 練	中 期 訓 練
相 対 風 速	30 Kt	60 Kt 以内
艦 の ロ ー ル	7°	未 定
艦 の ピ ッ チ	2°	〃
最 大 飛 行 距 離	10,000 ヤード	15,000 ヤード
シ ー ス テ イ ト	3	5
視 界	300 ヤード	未 定
シ ー リ ン グ	400 フィート (CICコントロール含まず)	未 定
夜 間 飛 行	禁 止	可

註：BQT訓練中、コントロール指導官が乗艦して指示を与えた場合は、

この飛行制限は必ずしも守らなくてもよい。

## 2 攻撃の基本的考察

### (1) 攻撃兵器の選択

DASHの根本的特徴……長距離攻撃

自艦又は他艦がDASH以外の対潜兵器の攻撃可能圏外に目標を捕捉しているときは、DASHのみが攻撃任務を遂行しうる。

自艦又は他艦の他の攻撃兵器のレンジ内に目標が現れたならば、攻撃兵器の選択をしなければならない。

常識的な考え方として、

# HP『海軍砲術学校』公開資料

- ア 各兵器の攻撃準備の状況
- イ 目標の位置及び状況
- ウ 攻撃速度
- エ 命中精度

等がある。

しかし、DASHは別に次のような特異性を有す。

- ア 攻撃中、目標が消滅したり、誤標であると判明した場合でも魚雷を回収できる経済性を有す。
- イ 空中で待機出来る。
- ウ 反復攻撃が可能である
- エ 魚雷等使用攻撃武器の選択が自由である
- オ 命中精度が高い
- カ 発艦が潜艦に比し容易であるから、DASHの損耗を覚悟すれば有人機使用不能の荒天下においても使用できる。

等の利点と同時に

- キ 発着艦に際し、艦の運動が制限される。しかし、これは他の攻撃兵器についても同様の難点がある。
- ク DASH自体の飛行可能時間に制限がある。  
空中待機の利点と同時に飛行時間をも考慮せねばならない。
- ケ とつぎ攻撃に使用できない。
- コ 他の味方艦艇に対する衝突等の危険性を伴っている。

このためDASHの飛行については、DASHと他艦艇との行動区域を規制する必要がある。

等の欠陥をも考慮せねばならない。



# HP『海軍砲術学校』公開資料

## (2) 新しいASWのあり方

DASH使用のASW戦術は未だ確立されていない。

DASH(長距離攻撃可能)の出現→新しいASW戦術検討中  
即ち高性能△からの攻撃をいかに回避し、これを攻撃するか  
従来の攻撃法→水上△は徒らに敵潜の餌食になるのみで味方艦の攻撃力は完全に封さされてしまう。

基本戦術として

ア 敵潜より早い早期探知 }  
イ 先制攻撃 } ソナーの絶対的優位保持のときのみ

通常の場合

ウ 攻撃しつつ敵潜の攻撃レンジ外に回避

エ 敵潜の攻撃レンジ外から正確に探知を保持しつつ長距離攻撃を敢行する。

また敵△の攻撃力と防衛力を考えて

オ 可能な限りの攻撃兵器を集中する、要すれば他艦との連合攻撃を実施し、確実に撃滅する。

DASHの有する長距離攻撃及び飛行時の行動制限等の特質からDASH艦の単独行動又はDASH艦同志の編隊行動が好ましい。

ASWにおいては、ピケット的な占位が最も効果的と考えられる。

以上のように

DASHをASWに使用するには、その特質を熟知しておく必要がある。

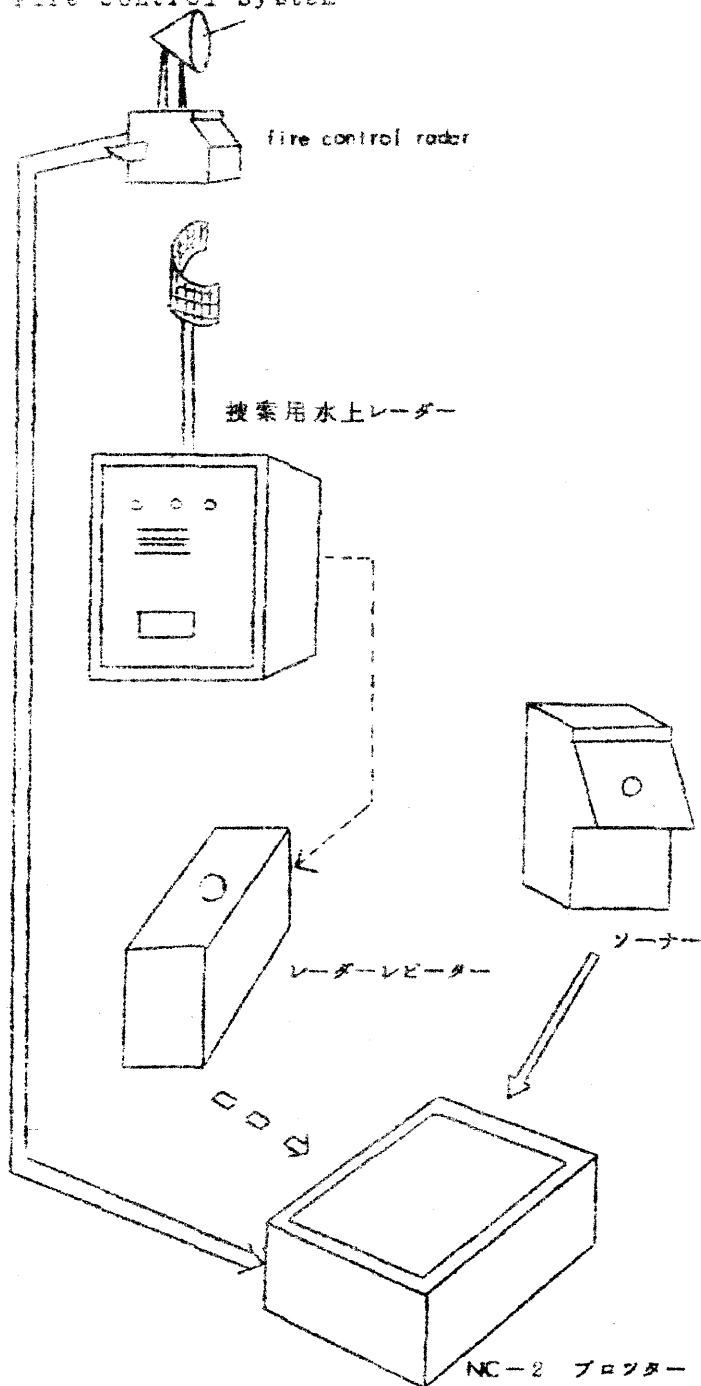
と同時に、

他の対潜兵器との「上手な使い分け」が必要である。

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

## 3 対艦攻撃法

### (1) DASH Fire Control System





# HP『海軍砲術学校』公開資料

DASH F.C System はレーダープロッターを中心とする一連の情報収集装置である。

- a 自艦の行動
- b ソナーからの目標情報
- c 対空、対水上レーダーからの目標情報

これらは自動的に表示盤に表示され Plotter 員は、これをプロット  
コントロールは、プロットされた目標の軌跡からの針的速を知り  
DASH を攻撃見越点付近へ直行させる。

次いで攻撃運動に移り、通常  の後方から直上を航過させ投下点で  
魚雷を投下する。

対空用トラッキングレーダーは、正確であるが水上用 PPI レーダー  
は不正確である。後者を利用する時は付近  等の所在も判明するので、  
空水協同作業中の安全航法上からは、便利である。

コントロールの練度がある程度に達すると、攻撃精度は F.C System  
の精度と等しくなる。即ちこの誤差は、距離の約 2% 程度と考えら  
れる。

## (2) 待機基準

DASH の攻撃待機基準の区分

- ア 空中待機、空中又は艦上で攻撃目標の指示を待つ。
- イ 第 1 待機 (即時) 90 秒以内に発進 (魚雷装着、プリフライトチェック完了)
- ウ 第 2 待機 (緊急) 5 分以内に発進 (魚雷装着、プリフライトチェック完了)
- エ 第 3 待機 (警戒) 15 分以内に発進 (DASH はハンガー内、魚雷

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

装着、要員待機)

オ 第4待機(通常) 30分以内に発進(全上、但し要員分散)

注1 港内における艦載準備は、出港準備所要時間内又は所定の時間内に終了し、出港後は発進可能の状態に保つこと。

2 出港後に整備を要するときは、1機を常に可動状態に保つたまま、1機ずつ実施する。可動機は常に燃料を満載しておくこと。

(3) 攻撃整元の決定

ア アイムポイント(魚雷の入水点)

目標の Speed によりアイムポイントは変化する。

目 標 の Speed	アイムポイント(目標の前方)
0 ~ 12 Kt	100 ヤード
12 ~ 18 Kt	280 ヤード
18 ~ 22 Kt	450 ヤード

C-8 20  
S-48 500  
18~ 700  
unknown 400

目標スピードを正確に知ることが出来ない時は、400ヤード前方を入水点とする 25Kt 以上の目標は、その前方から攻撃する。アイムポイントは 400yds ~ 600 ヤード前方とする。(25Kt 以上の目標に対しては MK-46 魚雷を使用するのが適当である)

イ D A S E の高度と機速による修正

MK-44 魚雷については別表 1  
MK-46 " " 2 } による修正

ウ 投下法(MK-44 魚雷)

ウ 目標の後方から直上を航過し、直上で「アームウェポンスイッチ」を押す。

# HP『海軍砲術学校』公開資料

- イ) ア、イ項によつて求めたドロップポイントで魚雷投下
- ロ) 魚雷の深度調定が異なる場合は同時投下
- ハ) 魚雷の深度調定が同じ場合は第1弾投下から7分経過後

## エ 調定法 (MK-44魚雷)

例

分	A	B
シーリング	50'	50'
調定深度	250'	450'
フロア	650'	900'
入水点	200 Y	200 Y

## オ 航過法

目標に対する接近法と航過法は大西洋艦隊と太平洋艦隊に若干の相違がある。根本的には、

ロ) 目標の後方から(高速目標に対してはこの限りでない)接近し、目標の前方で魚雷を投下する。

- イ) 魚雷投下に最適高度、最適機速は400フィート、40kt
- ロ) 攻撃航過中はDASHの機速、高度を変えてはならない。

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

## § 4 S Q T

### 1 準備

- (1) DASH 艦就役 …… 2機 の DASH と RFT 終了した DASH 要員を受け取る。

SQT …… 11 FTGT (米艦) 4 名 (米艦) を編成

### (2) 必要な準備

ア 艦内乗員に対する教育

イ DASH 訓練部署の編成

ウ ANNEX A による艦内装備の整備

エ 補給、記録、及び DASH に必要な工具類等の完備

オ 燃料テスト

カ マニュアル類の取得

### 2 SQT ( Ship Qualification Trial ) の内容

#### (1) 目的

戦術用法に対して装備、技術が適正かどうかを決定

#### (2) DASH Weapon System に対する SQT は不可欠のもの

SQT はこれを遂行する手段として DASH の初期訓練と合せて実施

#### (3) SQA T ( Ship Qualification Assistance Team )

11 FTGT が SQT を指導するチーム (別名 SQA T) を編成

SQA T は DASH 艦に派遣、SQT 実施 …… 問題点の追求と解決手

段の発見

チーム編成 (米艦) わが方なし

ジャイロデザイン社技術員

# HP『海軍砲術学校』公開資料

ボーイング社技術員

パプコック社 //

ソーナー製造会社技術員

SRAT 期間中の詳細なプログラムを用意

これらのテストは全てのシステムの作動能力を最初にテストするよう計画。

実際の潜水艦攻撃（訓練用ミレーを使用）を介して、探知から目標攻撃に至るまでのシステムの能力を連続して実施する。その他各種の運用上の安全テストを併せて実施する。

## (4) SRAT プログラムの概要例

日 付	場 所	実 施 要 領
1 日 目	港 内	(1) 打合せ（△、コントロール指導官、SRAT、会社） (2) 準備開始
2 日 目 3 日 目 4 日 目	港 内	(1) テストプランA（SystemのCheck out） ア 会社側による特殊のシステムテスト イ 通常テスト ウ ソーナー、レーダーの内部配置、能力の check エ 工具、オイル、揚収用具等すべての補用品 check オ 艦上試運転
5 日 目	港 内	(1) テストプランB（デツキサイドドリル） ア 通信交話テスト イ ハンガー内 check ウ デツキ作業と索具装着訓練 エ 魚雷装着訓練

# HP『海軍砲術学校』公開資料

	港内	オ 燃料補給訓練
6日目	海上	カ エマーゼンシー訓練（墜落と火災） キ フライト訓練手続（着進移換、着艦） ク R5-500ターナアップ
7日目 ↓ 13日目	海上	(1) テストプランC（フックオーバーション） ア 発着と着艦 イ デッキ作業と索具装着 ク コントロール切換、移換 エ 魚雷装着訓練 オ エマーゼンシー訓練 カ 燃料再補給 キ 荒天下の飛行作業訓練 ク 狭視界でのリカバリー手順
14日目 ↓ 15日目	海上	(1) テストプランD（レーダーとソーナーの協同訓練） ア 方位距離測定 (2) エマーゼンシーと魚雷装着訓練
16日目 ↓ 19日目	海上	(1) テストプランE（戦闘と攻撃任務）実証的使用 ア 目標に対する航過法 イ 魚雷攻撃 (2) エマーゼンシー訓練荒天下飛行作業、急降下リカバリー訓練
20日目	港内	(1) 打合せと批評



# HP『海軍砲術学校』公開資料

注(1) 毎週、金～土に次週の打合せと経過の説明

(2) 天候器材の故障等による期日の変更、延期は差支えない。

(5) 訓練基準

期間中必要とする訓練単位

発射機 20回

魚雷装填 2回

戦術任務 10回

( 10,000ヤード以上で5回 )

魚雷装着訓練 15回

ドローンのデツキ作業訓練 30回

エマーゼンシープロシイデユア 5回

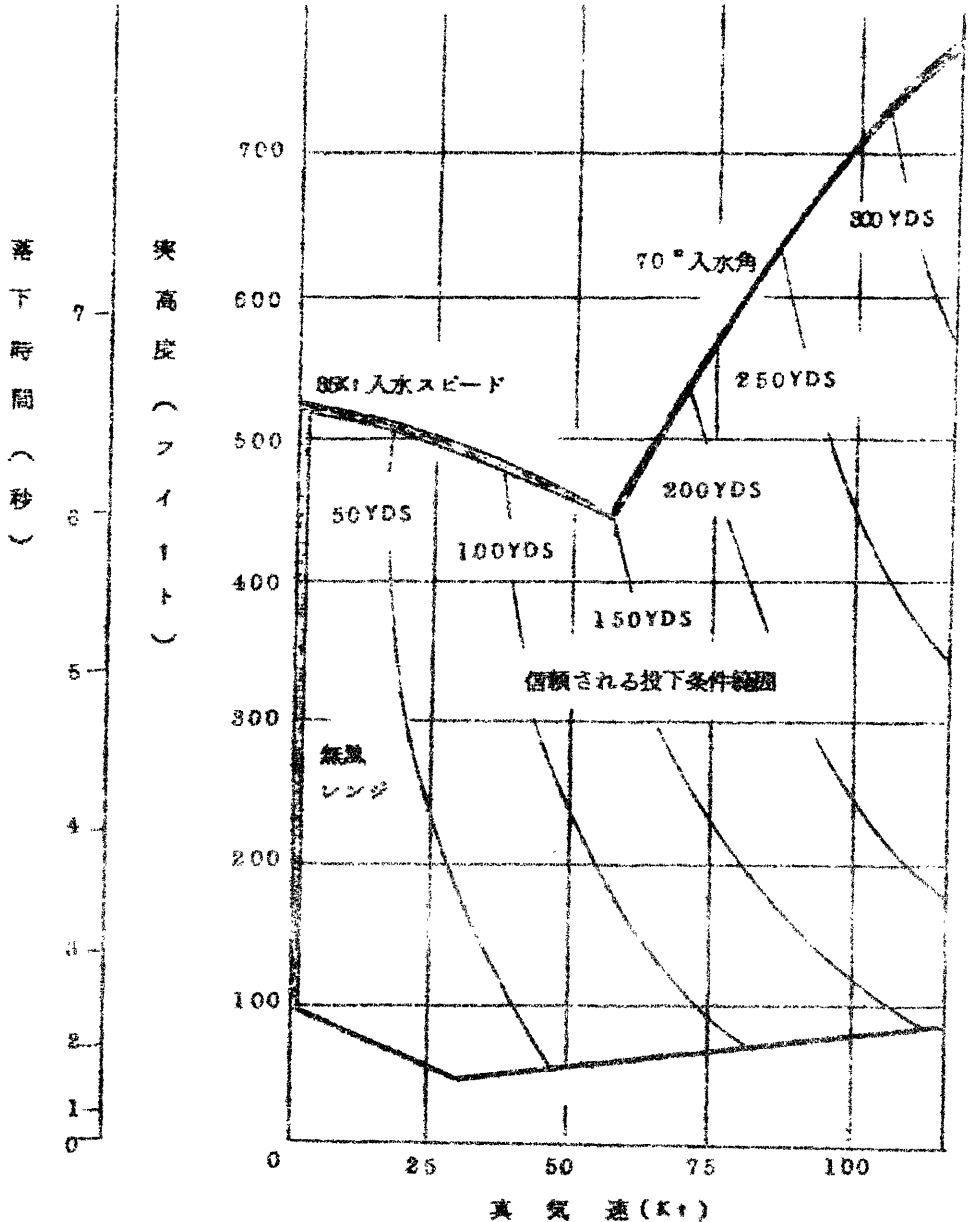
# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

別表1

## 魚雷投下修正表

魚雷投下範圍

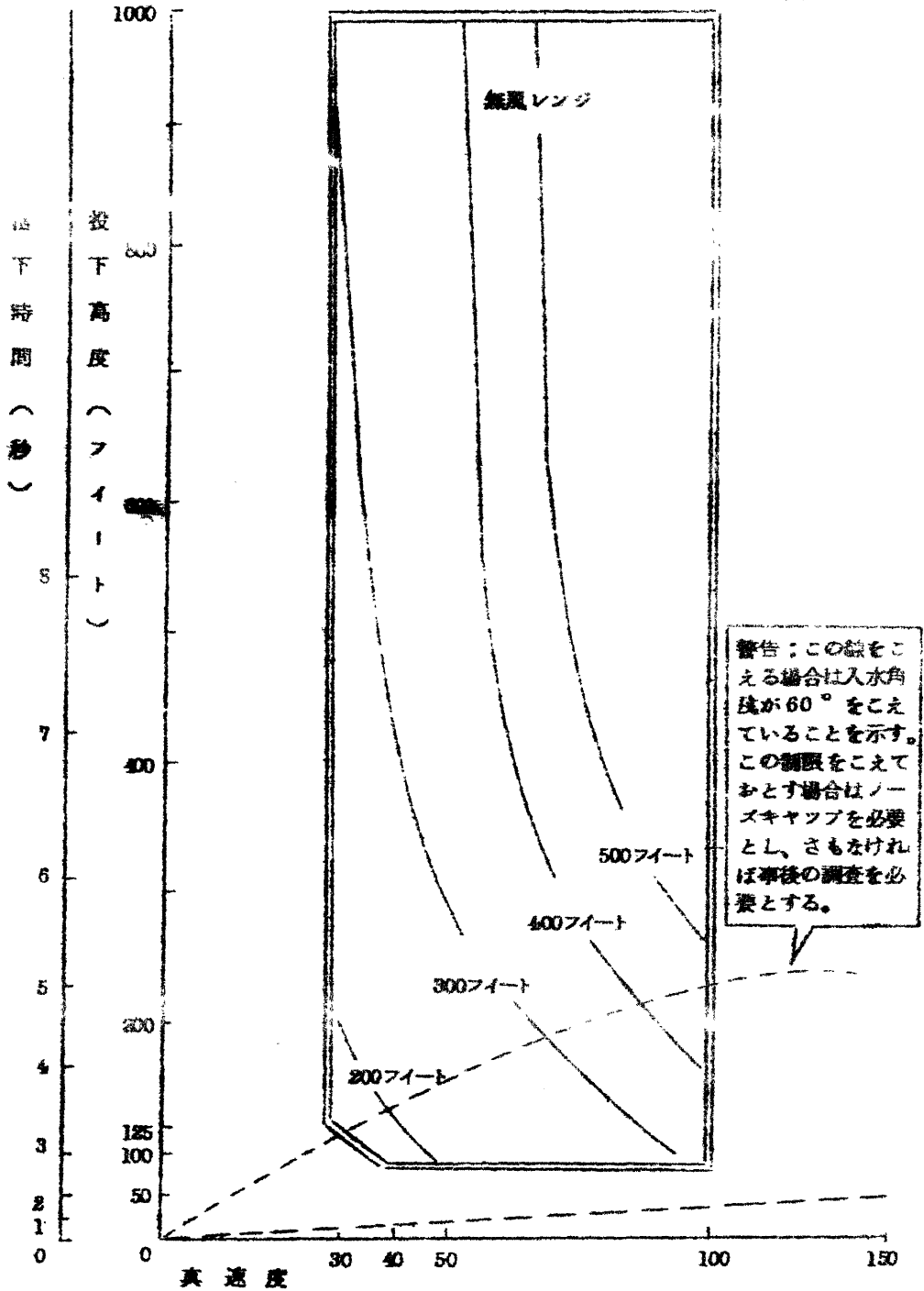
MK-44 魚雷、エヤスタビライザーMK24 MCD2 装着



# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

別表 2

MK-46 魚雷 スタビライザー MK 31 MOD 0 装着



# HP『海軍砲術学校』公開資料

## § 5 海上訓練指導隊群における教育訓練と整備支援

### 1 教育訓練

#### (1) 基礎教育

要員の基礎教育の3部門

- a コントローラー
- b 機体エンジン
- c 電 子

教育場所 11FTG (江田島、大原)

教育期間

コントローラー 22W (乗艦実習3Wを含む)

機体エンジン 13W

電 子 18W

#### (2) 乗艦実習

コントローラー

5W ……陸上でコントロール基礎訓練……デツキコントローラー  
としての発着艦訓練

3W ……陸上で練成訓練………艦上における発着艦訓  
練とGICコントロー  
ラーとしての対潜攻撃  
法

#### (3) SQT訓練

戦術用法に対して艦の装備技術が適性がどうか決定する(SQTの目  
的)

# HP 『海軍砲術学校』 公開資料

SQT 訓練は SQT と合わせ実施——SQT 遂行のための手段

## (4) 初期訓練

SQT 実施の DASH 艦は DASH 艦としての資格を付与される。

以後 DASH 艦は艦艦としての初期訓練を実施

訓練項目

発着艦訓練 (Sea State 3 まで)

CIC 移換法

訓練対潜攻撃 A 法 (仮称…目標と魚雷投下は仮想)

“ B 法 (“ “ “ はダミー) etc

## (5) CIC チームの訓練

DASH の初期訓練と併行して実施

CIC チームは DASH の運用法を熟知してないと、その任務を完全に遂行することが出来ない。

CIC チームの訓練

通常の CIC チーム訓練のほか

NC-2 プロッター上における DASH のプロット法、的針的速算定

魚雷投下諸元の算定及び DASH ロスコン時の処置等を DASH 訓練と協同して実施。

## (6) 中期訓練

個艦の総合訓練

DASH、CIC チームの個別訓練完成後、他の対潜兵器 (H/H、魚雷 etc) との総合訓練や、砲術、応急との総合訓練を加味して行く。

DASH を使用する対潜訓練の最終段階において、突  と訓練用

# HP『海軍砲術学校』公開資料

MK-44魚雷を使用し、ASWの総合的な練度の成果を確認する要あり。

又、コントローラーの練度に応じシーステイト4～5における発着艦訓練及び夜間飛行訓練を実施。

## (7) 後期訓練

2艦以上の連合攻撃、DASH艦から艦への移換、DASH2機以上の同時飛行等高度の戦術用法が考えられるが未だオーソライズされていない。

## (8) 段階的訓練の実施

艦長はDASHチームの練度等を勘案し、段階的に訓練を実施

初期、中期等に区分するとともにコントローラー等の操縦技術の個人差をも加味し、無理のない訓練を実施。

## (9) 訓練指導

### 11 FTGの訓練指導

ア DASH艦乗員に対する教育

イ 乗艦実習における訓練指導

ウ SQTチームの編成及び技術指導

エ SDTに対するDASH部門の訓練指導

オ その他必要事項

## 2 整備支援

### (1) 整備段階

航空機整備規則に準ずる。